

農業資材審議会農薬分科会農薬蜜蜂影響評価部会（第17回）議事要旨

1 開催日時及び場所

日時：令和7年6月13日（金） 13:30～16:40

場所：農林水産省消費・安全局第1会議室（WEB 会議形式の併用による開催）

2 出席委員（敬称略）

五箇公一、山本幸洋（部会長）、中村純、永井孝志、横井智之、
清家伸康（専門参考人※）、與語靖洋（専門参考人※）

※議題（1）、（2）のスピロピジョン並びに（3）のクロチアニジン、チアメトキサム及びフィプロニルに参加

3 議事要旨

（1）農薬のミツバチへの影響評価に係る補足事項について【公開】

資料4「農薬のミツバチへの影響評価に係る補足事項について」が了承され、農薬蜜蜂影響評価部会決定として農業資材審議会農薬分科会に報告することとされた。

（2）農薬取締法（昭和23年法律第82号）第3条第1項の農薬の登録に係る令和元年農林水産省告示第480号（農薬取締法第四条第一項第五号に掲げる場合に該当するかどうかの基準を定める件）第3号に掲げる蜜蜂の蜂群への影響その他農薬の蜜蜂への影響評価に関する事項について【非公開】

- ① グルホシネートの蜜蜂影響試験の結果から、注意事項を要しないことが了承された。
- ② スピロピジョンの蜜蜂への影響評価に用いる毒性指標を次表の値とすることについて、了承された。

生育段階	毒性試験の種類	毒性指標値	
成虫	単回接触毒性	48 h LD ₅₀	190 µg ai/bee
	単回経口毒性	48 h LD ₅₀	100 µg ai/bee
	反復経口毒性	10 d LDD ₅₀	6.8 µg ai/bee/day
幼虫	経口毒性	72 h LD ₅₀	0.88 µg ai/bee

また、予測式を用いて算定した推定暴露量と上記毒性指標値をもとに評価（第1段階評価）した結果又は蜂群への影響評価（第2段階評価）の結果、申請された使用方法に基づき使用される限りにおいて、ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはないと考えられることが了承された。

- ③ ベンジルアミノプリンの蜜蜂影響試験の結果から、注意事項を要しないことが了承された。
- ④ L-グルタミン酸、L-フェニルアラニン、L-プロリン及びL-リシンは、農薬以外で広く利用されており、ミツバチに対して安全であることが明らかな場合に該当すると整理できることから、申請された使用方法に基づき使用される限りにおいて、ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはないことが了承された。

- (3) 農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）第 8 条第 1 項の農薬の登録に係る令和元年農林水産省告示第 480 号（農薬取締法第四条第一項第五号に掲げる場合に該当するかどうかの基準を定める件）第 3 号に掲げる蜜蜂の蜂群への影響その他農薬の蜜蜂への影響評価に関する事項について【非公開】

- ① アラクロール、プロピネブ及びベンゾビシクロンの各成分の蜜蜂への影響評価に用いる毒性指標を次表の値とすることについて、了承された。

	生育段階	毒性試験の種類	毒性指標値	
アラクロール	成虫	単回接触毒性	48 h LD ₅₀	100 µg ai/bee
		単回経口毒性	48 h LD ₅₀	94 µg ai/bee
プロピネブ	成虫	単回接触毒性	48 h LD ₅₀	160 µg ai/bee
		単回経口毒性	48 h LD ₅₀	160 µg ai/bee
		反復経口毒性	10 d LDD ₅₀	4.6 µg ai/bee/day
	幼虫	経口毒性	72 h LD ₅₀	11 µg ai/bee
ベンゾビシクロン	成虫	単回接触毒性	48 h LD ₅₀	200 µg ai/bee
		単回経口毒性	48 h LD ₅₀	200 µg ai/bee
		反復経口毒性	10 d LDD ₅₀	62 µg ai/bee/day
	幼虫	経口毒性	72 h LD ₅₀	44 µg ai/bee

また、これらの成分は、いずれも、昆虫成長制御剤に該当せず、毒性試験の結果（LD₅₀ 値）が 11 µg/bee 以上の確定値又は超値であることから、リスク評価を行う対象とはしないことが了承され、申請された使用方法に基づき使用される限りにおいて、ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはないと考えられることが了承された。

- ② フィプロニルの蜜蜂への影響評価に用いる毒性指標を次表の値とすることについて、了承された。

生育段階	毒性試験の種類	毒性指標値	
成虫	単回接触毒性	48 h LD ₅₀	0.0057 µg ai/bee
	単回経口毒性	48 h LD ₅₀	0.0039 µg ai/bee
	反復経口毒性	10 d LDD ₅₀	0.00005 µg ai/bee/day
幼虫	経口毒性	72 h LD ₅₀	0.026 µg ai/bee

また、予測式を用いて算定した推定暴露量と上記毒性指標値をもとに評価した結果、申請された使用方法や被害防止方法に基づき使用される限りにおいて、ミツバチの群の維持に支障を及ぼすおそれはないと考えられることが了承された。

- ③ クロチアニジン

クロチアニジンの蜂群への影響評価に関する審議を行い、継続審議となった。

- ④ チアメトキサム

チアメトキサムの蜂群への影響評価に関する審議を行い、継続審議となった。

- (4) その他【非公開】

フルペンチオフェノックス、シクロピラニル、イソプロチオラン、イミダクロプリド、キノクラミン（ACN）、チアジニル、プレチラクロール及びプロパ

モカルブ塩酸塩の各成分の蜜蜂影響評価書（案）に対する御意見募集の結果について（案）の「御意見に対する考え方」について、了承された。

（以上）